

『故郷（ふるさと）』

作詞：高野辰之

作曲：岡野貞一

うさぎ追いし かの山  
こぶな釣りし かの川  
夢は今も めぐりて  
忘れがたき ふるさと

※写真は歌のイメージです

## 特集 1

# 8月は同和問題啓発強調月間です

～自分を見つめてみましょう～

● 問合せ 生涯学習課人権・同和教育係（☎ 3186）

人には誰しも故郷があります。生まれ育った場所に、愛情や誇りを持って生活しています。言うまでもなく、人は生まれる場所を選ぶことはできません。あたりまえの話です。

それなのに、私たちが暮らすこの社会には、この『あたりまえ』のことを理由にした差別があります。生まれた場所や育った場所、住んでいる場所など、いわゆる住所で人の値うちを差をつける『部落差別』です。部落差別は人生を奪います。例えば、優れた能力がありながら、就きたい職業への道を閉ざされたり、世間体を気にする周囲によって、愛を引き裂かれたりするなど、部落差別によって引き起こされるさまざまな人権侵害は『同和問題』と呼ばれ、人権の世紀と期待された21世紀においてもなお、日本における重大にして、最も深刻な社会問題です。同和問題は「昔から言われているから」「みんなが言っているから」という、周囲の意見に左右される日本人の悪しき風習によって引き継がれてきた、日本固有の人権問題とされています。同和問題の解決はなくして、日本における人権問題の解決はありません。

8月は、同和問題啓発強調月間です。この機会に、自分を見つめてみませんか。差別をなくす第一歩は、自分と向き合うことから始まります。

8月は同和問題啓発強調月間です

2021 伊万里市

# 同和問題講演会

同和問題の解決には、誤った考え方や偏見に惑わされずに、同和問題について正しく認識し、差別に気づき、差別を許さない心を持つことが必要です。「自分には関係ない」という考えが、差別を温存し助長することにもなりかねません。一人一人が『自分自身の問題』ととらえ、きちんと向き合っていくことが大切です。

入場  
無料

日時

8月27日(金)

午後1時30分～3時15分〔開場1時〕

会場

伊万里市民センター  
(文化ホール)

新型コロナウイルス感染症対策のため、  
次のことにご協力ください

- ▷体調が悪い人は、参加をご遠慮ください
- ▷マスクの着用をお願いします
- ▷入口での検温・手指消毒にご協力ください
- ▷受付で氏名・連絡先の記入をお願いします
- ▷当日は、座席を指定します

## インターネットと 人のかか・ねり合い

講師

【タレント】スマイリーキクチさん

▼プロフィール

東京 北千住生まれの下町育ち。この笑顔とおだやかな口調ながら、するどい切り口のトークが特徴。また自身のネット中傷被害の経験を生かし、講演活動を行っている。

平成5年1月コンビ『ナイトシフト』結成。平成6年6月解散。現在は一人で活躍中。

※手話通訳・要約筆記を行います。

※託児所が**ありません**ので希望する人は8月20日(金)までに下記へ申し込んでください。

〈主催〉伊万里市 / 伊万里市教育委員会 / 伊万里市人権・同和教育推進協議会  
〈問い合わせ先〉伊万里市役所 生涯学習課 ☎0955-23-3186



# いま、あなたに伝えたいこと

## 差別とは

差別とは、差別をする人が自分に都合のいいことを正当化するために、理由にならないことを口実にした、命を奪う言いがかりのことです。差別は、差別をする人がいるから起こります。つまり、差別をする人が、差別する理由を作っているのです。

## 自分自身の問題です

差別は『差別される人』の問題ではなく、『差別する人』の問題です。したがって、大切なことは『なぜ差別をされたのか』と差別される理由を探すことではなく、『なぜ差別をしたのか』と差別をする人に焦点を当てることです。そうすることで、差別をひと事ではなく『自分も差別をする側になってしまいかもしれない』と自分事として考えることにつながります。

## 差別は見ようとしなければ見えません

『見えない』ことと『無い』ことは違います。差別は見ようとしなければ見えません。自分が知らないから差別はないと考えず、差別がどこに隠されているのかを見抜く力に身をつけることが大切です。そのためには、さまざまな学びの場を通して正しい理解と認識を深め、確かな人権感覚を育むことが必要です。

## 差別は自然にはなくありません

『そつとしておけば差別はなくなる』『知らない人に教えるから差別がなくならない』そう考える人は少なくありません。いわゆる『寝た子を起すな』という事なかれ主義の考え方です。一見正しく聞こえますが、この考え方が正論であるためには、誤ったことを教える人がいないことが前提になります。人は正しい

知識を持たない場合、疑うことなく、誤った情報を信じる傾向にあります。私たちが生活する社会には、インターネットの普及によって、さまざまな情報があふれています。誤った情報に惑わされないために、同和問題を正しく知ることが大切です。

## 差別をなくすのは自分のためです

人は幸せになるために生まれてきます。幸せになるためには、幸せを妨げるものをなくさなければいけません。私たちが暮らすこの社会には、災害、病気、火事、犯罪、交通事故などさまざまな生活課題があります。差別もその一つであり、特別な問題ではないのです。差別をなくすことは、自分の幸せを守ることにつながります。

## 子どもの目線を大切に

素直な子どもの目線で社会を見ると、さまざまな矛盾が見えてきます。生まれた場所や住んでいる場所などを理由に、人の値うちを差をつける部落差別は、最も愚かな矛盾です。矛盾に気付いて自分の

言葉で考える。そのうえで子どもに説明できないことを見直そうとする姿勢が、同和問題の解決につながります。

## あなたが変われば社会が変わります

『差別をなくす』という壮大なイメージが先行し、ともすれば無力感に陥ってしましますが、私たちが「自分にもできることがある」と思えたとき、同和問題は解決へ向けて、大きく動き出します。なぜなら、社会は私たち一人一人できていくからです。あなたが変われば社会も変わります。自分を見つめましょう。差別をなくす第一歩は、自分と向き合うことから始まります。

## 研修講座に申し込んでみませんか

サークルや職場へ、講師として『同和教育指導員』を派遣しますので、気軽に申し込んでください。



### ◆どこで開催してもいいの？

市内であれば、希望の場所へ講師を派遣します（個人宅は除きます）。

### ◆いつでもいいの？

土・日曜日、祝日も派遣します（12月29日～1月3日は除く）。  
1回当たり30分～2時間程度でお願いします。

### ◆研修の内容は？

同和問題をはじめ、さまざまな人権問題について話します。

要望に応じて、啓発映画などの視聴覚教材を使用することもできます。

### ◆研修の費用は？

講師の交通費や謝礼などは一切不要です。ただし、会場使用料などは、依頼者で負担してください。

### ◆申し込み方法は？

生涯学習課（☎☎3186）まで問い合わせてください。  
できるだけ希望の日時に講師を派遣します。

# 『いま』を知らずに『未来』は語れません

昨年12月に実施した『人権問題に関する市民意識調査』の23項目のうち、同和問題に関する6項目の結果を紹介します。前回（平成27年度）の調査結果と比較し、市民の皆さんの人権意識がどのように変化したのかを確認してみましょう。

## ■ 人権問題に関する市民意識調査 ■

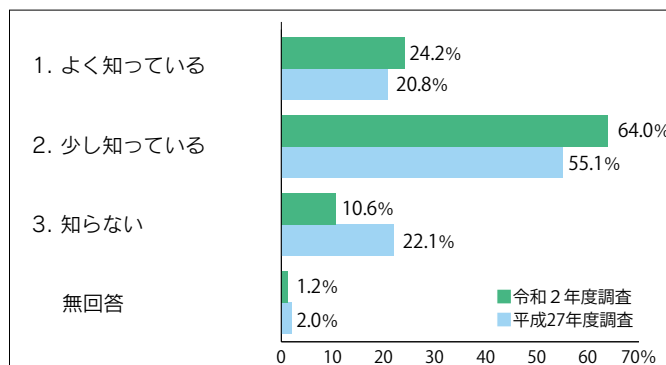
- 調査対象 令和2年4月1日現在で18歳以上の市民2,000人を無作為抽出
- 回収数 1,209人（回収率60.6%）
- ※実調査対象は、宛先不明7人分を除いた1,993人
- 調査方法 郵送による送付、回収
- 調査時期 令和2年12月

※質問2～6については、質問1で同和問題を『1.よく知っている』、『2.少し知っている』と回答した1,066人と『3.知らない』、『無回答』の意思表示をした人のうち24人をあわせた1,090人が対象

※比率は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、比率の合計が100.0%にならない場合があります。

※今回新設した設問、内容を変更した設問など、前回調査との比較をしていないものがあります。

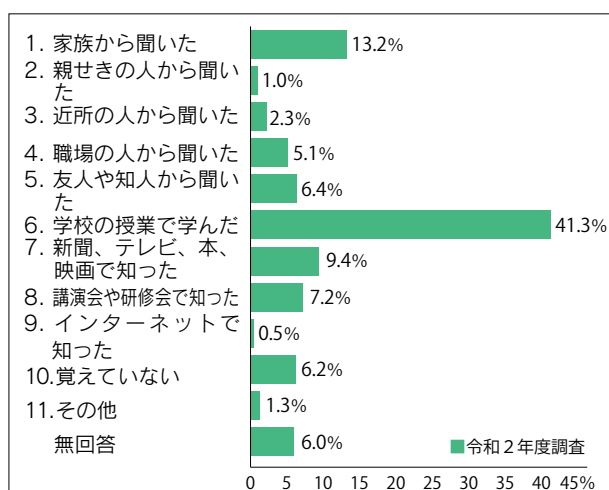
## 1 同和問題のことを知っていますか



### 考察

市民の9割が「知っている」と答えています。前回調査から1割以上の増加となっており、市民の意識の深まりを感じることができます。しかし一方で、まだ1割の市民が「知らない」と答えていることから、この層に対する教育・啓発の推進が求められます。

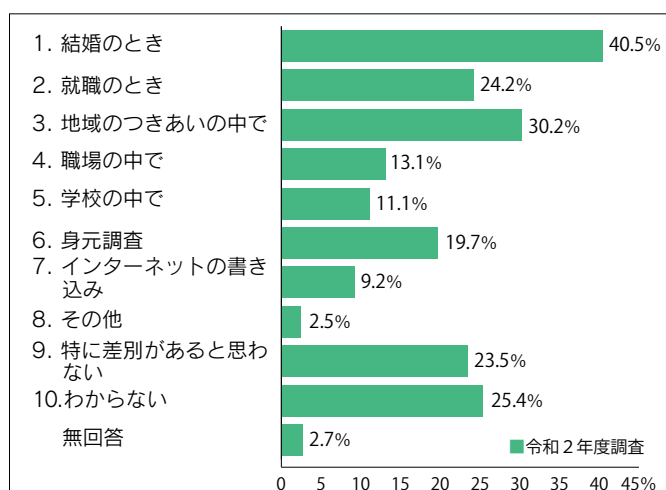
## 2 同和問題を知ったきっかけは何ですか



### 考察

市民の4割が「学校の授業で学んだ」と答えていますが、同じ4割が「家庭や地域におけるさまざまな場面で知った」と答えています。このことを踏まえ、あらゆる世代の市民に対して、生涯を通じた切れ目のない『学びの機会』を提供する必要があります。

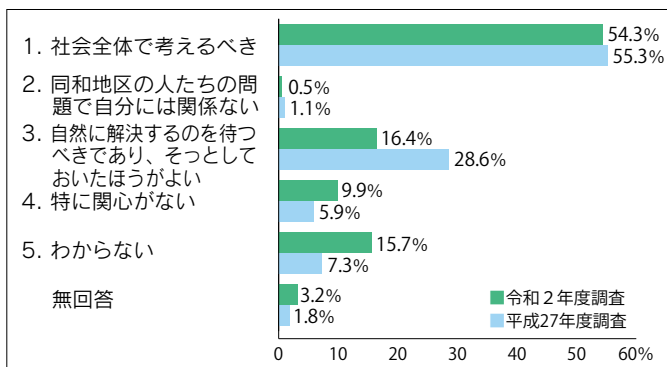
## 3 同和地区の人たちが差別されていると感じるときは？（複数回答可）



### 考察

人生の節目である『就職』や『結婚』の際に、多くの市民が同和地区の人に対する差別のまなざしを感じていることがうかがえます。いじめの問題と同じで、差別が『起きていない』のではなく『表面化していない』だけなのかもしれません。重く受け止める必要があります。

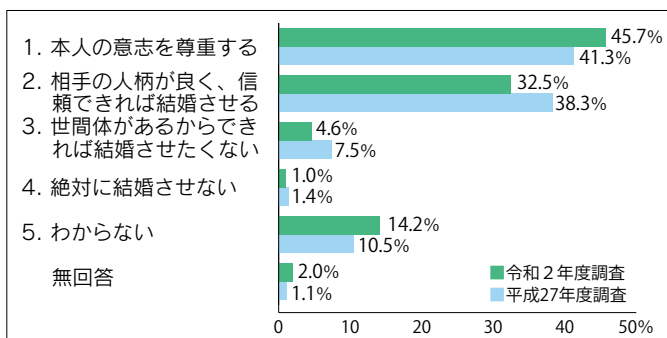
## 4 同和問題の解決に向けた考えを教えてください



考察

半数を超える市民が「社会全体で考えるべき」と答えていますが、一方で1割を超える市民が「そっとしておいたほうがよい」と答えており、市民の意識の中に『寝た子を起こすな論』が根強く残っていることが分かります。この層の意識を変える教育・啓発の推進が必要です。

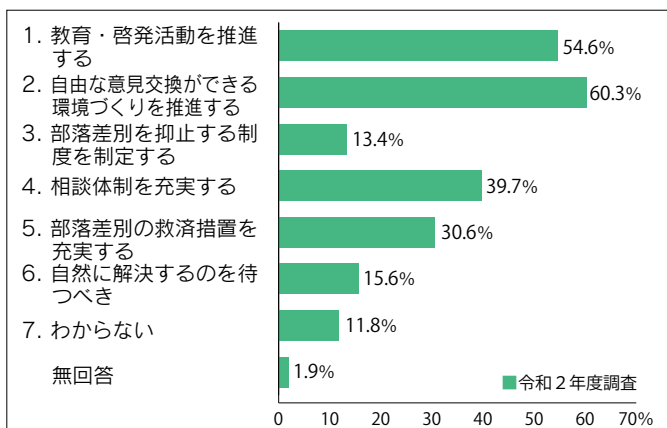
## 5 同和地区出身者との結婚についてどう思いますか



考察

大半の市民が、同和地区出身者との結婚にわだかまりを持っていません。市民の意識の深まりを感じることができます。しかし一方で、否定的な考えを持つ市民も根強く残っていることから、この層の意識を変える教育・啓発の推進が求められます。

## 6 同和問題の解決策は何だと思えますか (複数回答可)



考察

正しい理解と認識に支えられた考え方が大半を占めており、市民の意識の深まりを感じることができます。しかし一方で『自然に解決するのを待つべき』という誤った考え方も根強く残っていることから、一層の教育・啓発の推進が必要です。

### あなたは意識調査の結果をどう捉えましたか

- ▷回収率が60.6%と過去最高水準となっており、市民の人権問題に対する関心の高まりを感じることができます。
- ▷市民の意識は年を追うごとに深まりをみせてはいますが、『そっとしておいたほうがよい』などの誤った考え方も根強く残っているなど、まだ十分とは言えません。
- ▷特徴的な傾向として「わからない」と答えた『無関心層』が調査全般を通じて1割を超えて存在しています。このことは、学んだことが『知識』に留まっており、「自分と向き合い、自身の内面を見つめる」という行動へつながる『意識』が形成されていないことが伺えます。

市では調査結果をもとに、知識の伝達に留まらない『心に響く』教育・啓発を市民の皆さんのニーズに応える手法で推進していきますので、皆さんも身近な研修講座に、気軽に参加してください。